

山口遺跡第 21 次・下ノ内浦遺跡第 8 次調査の成果について

1. 調査要項

調査地点 仙台市太白区富沢一丁目
 調査期間 令和7年5月 27 日～10月 24 日
 調査面積 460 m²
 調査原因 共同住宅建設工事

2. 調査概要

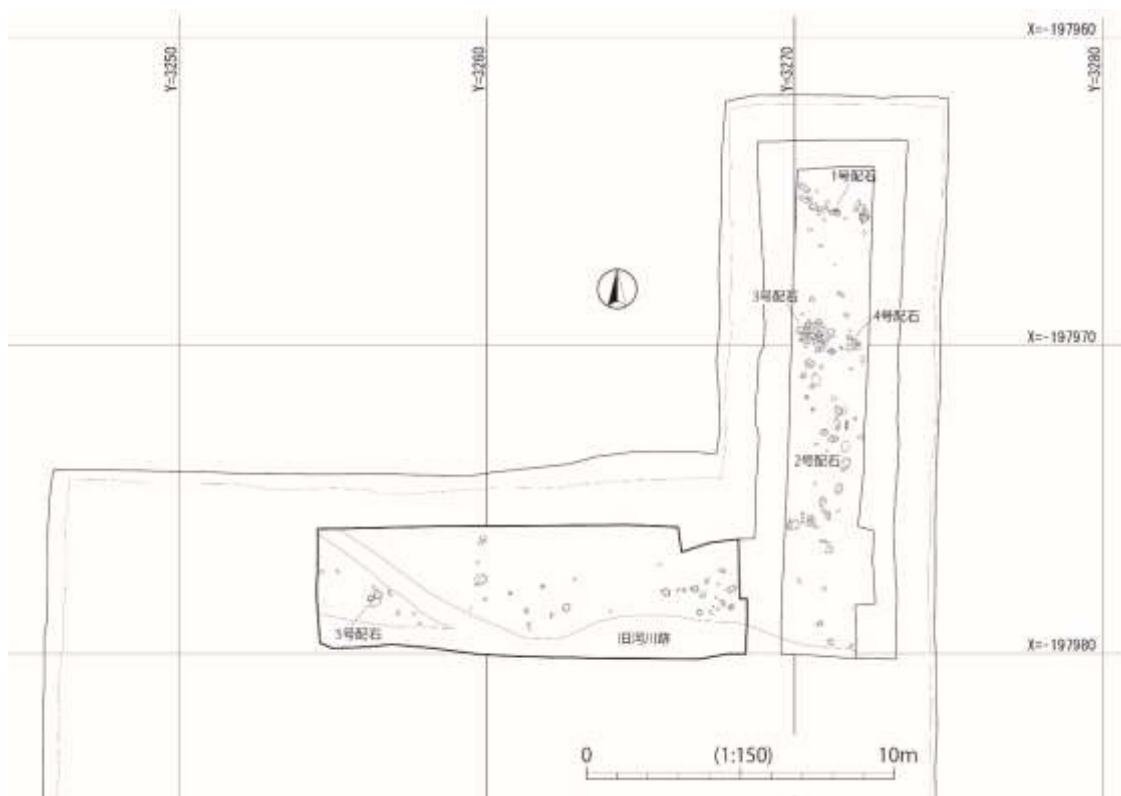
山口遺跡と下ノ内浦遺跡は、地下鉄南北線富沢駅の北にある富沢地域に所在している。調査地点は、名取川の支流である旧策川によって形成された自然堤防上に立地している。調査地点の周辺では縄文時代早期から近世まで人々の生活の痕跡が確認されている。

今年度の調査では、平安時代以降の河川跡のほか、縄文時代後期の配石遺構と土坑、ピットを確認した。遺物は縄文時代後期初頭の土器や石器、土製品のほか、縄文時代早期の縄文土器や石器が出土している。

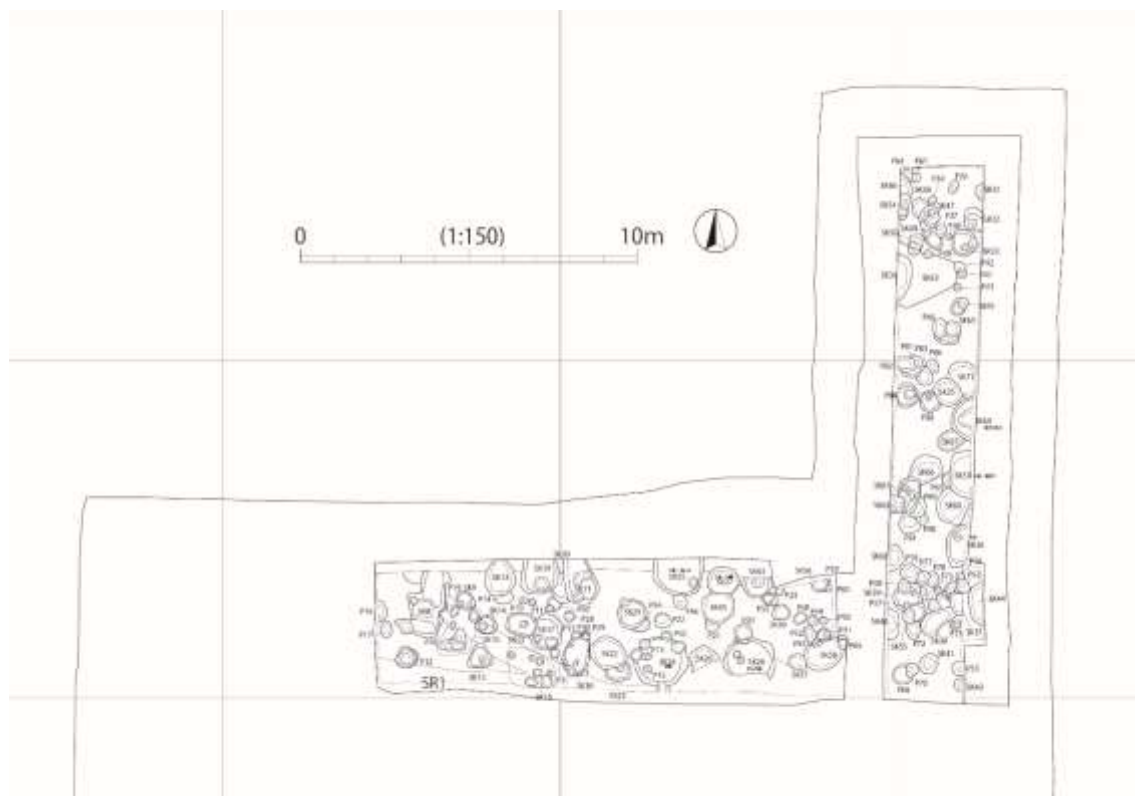
縄文時代後期の遺構はXI層とXII層上面で確認された。XI層上面では配石遺構4基が検出され、このうち1号配石と2号配石は、礫が弧状に並べられた状態で見つかった。また、配石遺構を構成する礫の中には石皿や磨石などの礫石器が転用されているものもあった。XII層上面では土坑 58 基、ピット 70 基が検出された。土坑の中には立石を伴うものがあり、下ノ内浦遺跡第2次調査で確認された墓域の続きであると考えられる。また、土坑からは縄文土器のほか、赤彩が施された土製耳飾りや土偶が出土している。SK39 から出土した土偶は残存長2cmで、仙台市内で出土した土偶の中でも最小の例に位置付けられる。



調査地点と周辺の遺跡



Ⅺ層上面検出遺構平面図



Ⅻ層上面検出遺構平面図



調査区東部XI層上面検出状況(上が東)



調査区Ⅱ上面完掘状況(上が北)



2号配石検出状況(西から)



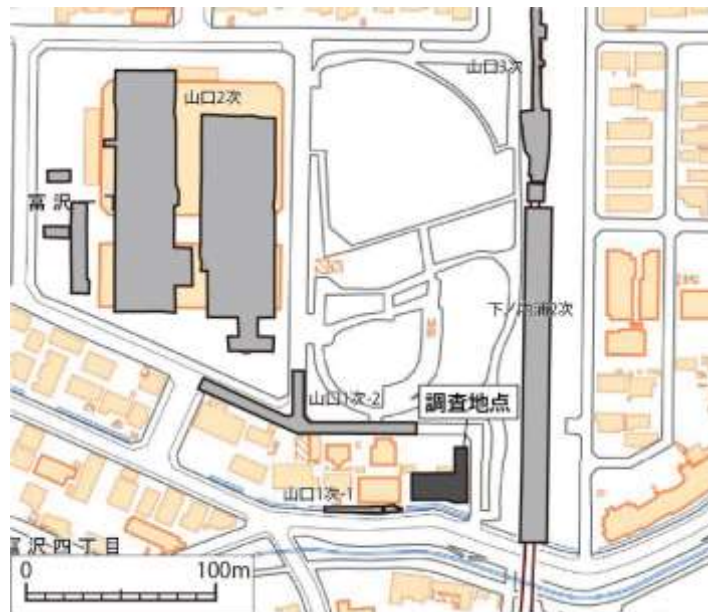
SK16 検出状況(南西から)



SK59 出土 土製耳飾り



SK39 出土 土偶



山口遺跡と下ノ内浦遺跡の調査区